

「水と戯れることの幸せ」

2020年8月6日

水中ウォーキング教室 大西 紀夫

スポーツクラブNAPで開催された夏休み子供短期教室をフロント近くの窓から見ていた。プールの子供達の澆刺としてはしゃぐ姿に、なにか懐かしさを感じた。そうだ、水は生命の源だと……だから自然に近くなるのではと……。水中ウォーキングもそうだが、水の中に入ると何故か心が落ち着く。そして、嬉しくなり楽しくなる。この歳で我を忘れてはしゃぎたくなる。ちょっと人間の誕生と水について調べてみた。母親の羊水の中は海の水と同成分なんだって。だから人間は水の中で育成し、そして誕生する。ここらへんにプールで子供がはしゃぐという行為が一致しているのかなー。いや大人になっても！！

ここで水に関して昔・昔、私の水との拘りを書いてみたくなった。多分、6才ぐらいであったが、まだ終戦（昭和20年）間もない時であった。夏になると遠くの海より近くの川で遊ぶ以外なかった。同じ年代の子供達と川で遊んでいたが、思わず淵に嵌り溺れそうになった時がある。深さ5mぐらいの淵であったが、必死に淵の壁の砂を蹴ることで、何とか水面上上がることが出来た。これは九死に一生を得た体験であったが、この時は、水をたらふく飲んだ。水への恐怖の記憶であるが、鮮明に覚えている。恐怖も覚えているが、この時の苦しい経験のあと泳げるようになったことも事実。水はやさしいが、怖い水もあると実感したものである。このあと歳を重ねるに従って海にも挑戦した。川に比べて海は塩からく意外と清んでいた。山陰の海だったからかも知れぬが、川と違う魅力があった。未知の世界を堪能した。

さあ、何が言いたいかといえば、水は人間にとって欠くことの出来ない大切な物である。恐さもあるが、我々を癒してくれる最大の物である。最初に書いたが、子供達がプールではしゃいでいる姿を見て、水という物を考えてみた。子供たちも我々もプールの水に戯れる幸せを感じたい。